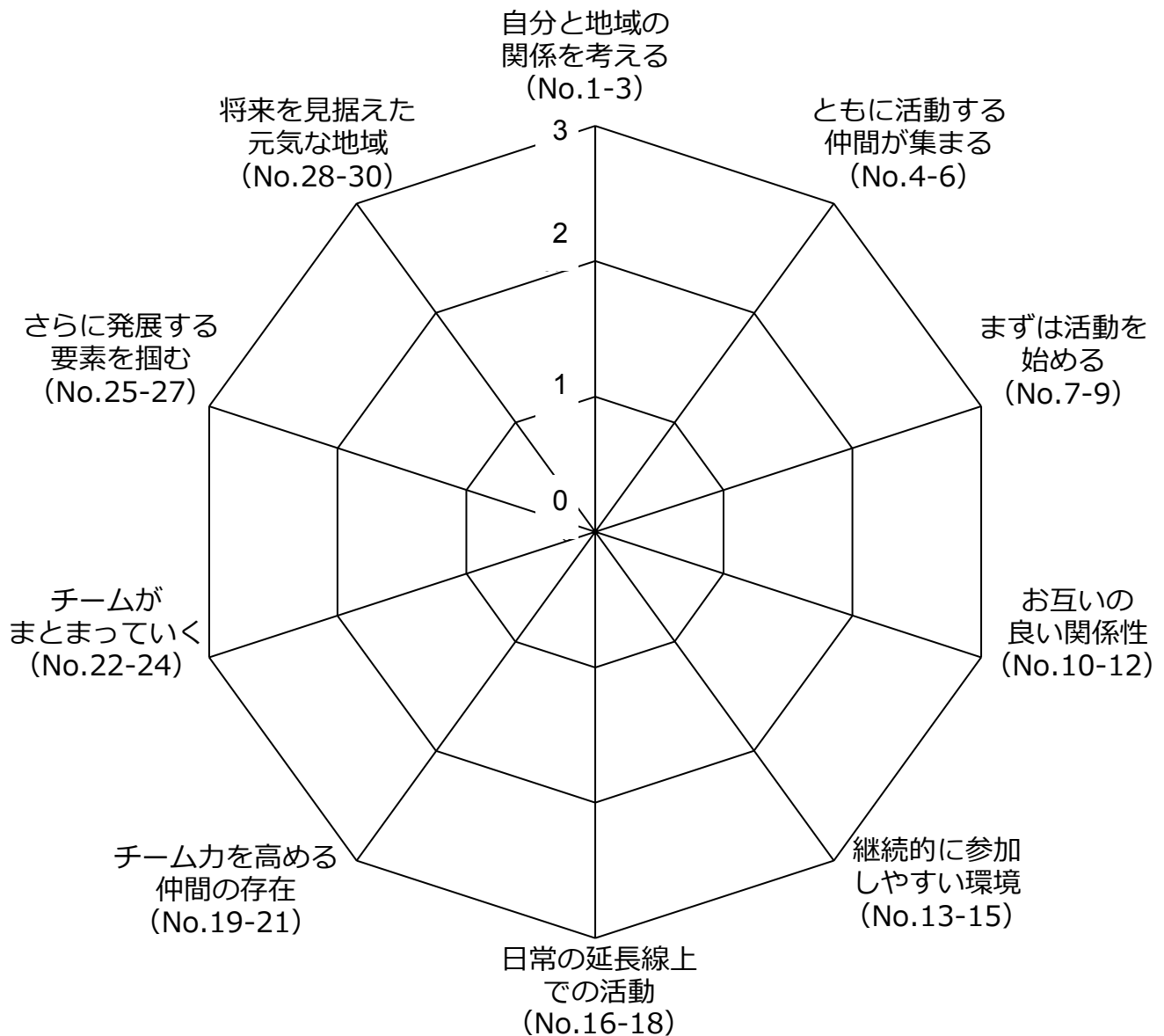


活動の振り返りと可視化 ～実践の経験チャート～

活動の現状を可視化するために、日頃、自分たちの活動での実践をチェックしてみます。

カテゴリー	グループ	パターン名	実践 チェック ○	合計 ポイント 0~3	
自分と地域との関係を考える		1.自分とこのまち			
		2.わがまちの良さ			
		3.いま暮らすまちのこと			
自分の暮らす 地域を知る	ともに活動する 仲間が集まる	4.まずは知ることから			
		5.あったらいいな！の発信			
		6.共感からつながる仲間			
	まずは活動を 始める		7.できそうばなし		
			8.まねたいこと探し		
			9.始めるが大事		
	お互いの良い 関係性		10.持ちつ持たれつ		
			11.ほどよい距離感		
			12.ご近所さんの強み		
	自分の暮らす 地域につながり を創っていく	継続的に参加し やすい環境	13.自分なりの参加		
			14.切り替えスイッチ		
			15.頼れる存在		
日常の延長線での 活動			16.身近なところから		
			17.もし自分だったら		
			18.親しみのサイン		
チーム力を高め る仲間の存在			19.話せる仲間		
			20.経験の共有		
			21.ねぎらいの言葉		
自分の暮らす 地域を盛り立て ていく	チームがまとま っていく	22.ご近所を想う時間			
		23.同じ時を過ごす			
		24.これ大事の確認			
	さらに発展する 要素を掴む		25.いつもの場にこそ		
			26.雑談の中に宝		
			27.新しい風の入るすき間		
	将来を見据えた 元気な地域		28.自分たちらしさ		
			29.少し先の未来		
			30.このまちのここが好き		

実践の経験チャート



- 実践領域が外側まで広く伸びているところは、多く実践している領域になります。逆に、へこんでいて狭いところは、実践していない（あるいはできていない）領域です。こうすると、「まちパタ」の観点で見た、現在の実践の全体像を把握することができます。
- その上で、へこんでいる領域を広げるにはどうしたら良いかを考えます。それぞれの軸には3つのパターンが紐付いています。つまり、そのうちのいずれかの一つを実践するようになれば、1目盛り領域が広がるわけです。そう考えながら、それぞれのパターンのページを読み直し、日頃意識して実践してみるようにします。このように、経験チャートは、現状を把握するだけでなく、次に取り入れてみるべきものが何なのかを考えるための手段となります。
- 実践を重ねていき、しばらくしたら再度描き直してみましよう。すると、実践領域が広がっていることに気づくでしょう。このように、経験チャートは、自身では掘みにくい自らの変化を把握することができる手段でもあるのです。
- ただし、この経験チャートは、人によって「実践あり」と判断する基準が異なるので、単純に領域の大小で他の人との能力比較に用いることはできないことに注意してください。経験チャートによる振り返りは、評価のための指標ではなく、あくまでも自分または住んでいる地域づくり活動の実践を高め、豊かにしていくためのものなのです。